

Stereo Sound

GRANDPRIX

ステレオサウンドグランプリ2018

ベストバイコンポーネント

2018-2019 BEST BUY 550選



2019
WINTER
No. 209



ES9038PROを搭載した同社デジタルファイルプレーヤーのトップモデル 音楽の姿かたちが大きく、熱気に満ちた力強い音

デジタルファイルプレーヤー

山本浩司

香港に拠点を置くルーミンからS1の上位機となるトップエンド・ネットワークプレーヤーX1が登場した。横幅350ミリのコンパクトサイズながら、電源部別筐体のアルミ削り出しボディを持つ本格派。採用されたDAC素子はESSテクノロジ社社の最新最高峰ES9038PRO。このチップをL/Rchそれぞれに1基ずつ与えたフルバランス構成で、その出力段にはスウェーデンのルンダール社製ライントランスフォーマーが搭載されている。対応レゾリューションは768kHz/32ビットPCM、22.5MHz DSDと万全の構え。

本機とリファレンスプリアンプのアキフエーズC3850をXLRバランス接続、オーディオ専用NASのデランI ZS20/2Aに収めた愛聴ハイレゾファイルをさまざま聴いてみたが、予想をはるかに上回る熱気に満ちた力強い音が飛び出してきて、椅子から転げ落ちそうになった。トニー・アレンのブルーノート・デビュー作『The Source』(88.2kHz/24ビット)で聴

けるベースとピアノが、これまで聴いたことのない中低域の充実した緻密なサウンドで描写され、アフロビートの真価を伝えるアレンのドラミングが渋い音色をとまぬいながら目に見えるかのような精妙さで表現されるのである。リズム・ライトの『バーレイ』(96kHz/24ビット)冒頭で聴ける低く伸びた大太鼓の迫真的なひびき、オンマイク収録されたギター・ピッキングの鋭で打ち抜くかのようなインパクトの強さにも声を失った。描かれる音楽の姿かたちがとてつもなく大きいのだ。

ケルテス指揮ウィーン・フィルの11・2MHz/DSDファイル『ドヴォルザーク：新世界より』の再生音も格別だった。安定したピラミッド型のエネルギーバランスを訴求し、コクのあるサウンドでひたひたと迫るオーケストラの力感を陰影深く描写するのである。弦楽5部のハーモニーではチェロ、コントラバスをフレームアップするような鳴り方だが、ぼくにはこのバランスがとても好ましい。恐るべきネットワークプレーヤーが出現したと深く感じ入った試聴だった。

ルーミン X1 ¥2,000,000

●型式:ネットワーク接続対応デジタルファイルプレーヤー●対応ファイル形式DSF、OFF、FLAC、WAV、ALAC、MP3、WMA、他●対応サンプリング周波数:DSD~22.5MHz、PCM~768kHz/32ビット●デジタル入力:イーサネット1系統(RJ45)、ファイバーネット1系統(SFP※)、USB 1系統(Aタイプ~768kHz、DSD)※SFP=Small Form Factor Pluggableの略。筐体には専用ケーブルを使用する●デジタル出力:同軸1系統(BNC)●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス出力1系統(XLR)●寸法/重量:本体・W350×H60×D345mm/8kg、電源部・W106×H60×D334mm/4kg●備考:写真の価格・仕上げはシルバー、他にブラック(¥2,200,000)あり、バランス出力は7~2番ピン●問合せ先:株式会社ルーミン 03(6869)0516